

[記者発表資料]

「統合失調症 AYA 世代センターの開設について」

1. 発表者： 笠井 清登（東京大学医学部附属病院 精神神経科 教授）

2. 発表のポイント

- ◆AYA（Adolescents and Young Adults：AYA）世代の統合失調症当事者に対して発症早期の集学的治療と、多職種による包括的なケアを行い、慢性化を防ぐ診療センターを開設します。
- ◆統合失調症当事者に対して成人期モデルによる治療提供は全国で行われてきましたが、AYA 世代に特化した集学的治療や包括的ケアのための専門診療センターの開設は日本初です。
- ◆統合失調症を持つ方への早期集中支援を行う本センターがモデルとなり、AYA 世代健康生活障害の最大要因である精神疾患の早期支援の重要性の普及が期待されます。

3. 発表概要：

近年、10代～20代（広く 30代までを含むこともある）にあたるAYA（Adolescent and Young Adult：AYA）世代の医療の充実が主張されることが増加し、先天性疾患や慢性小児疾患患者、小児がん領域などにおいてAYA 世代の医療・ケアの充実が注目されつつあります。AYA 世代の健康生活が損なわれる最大の要因は精神疾患であり、なかでも統合失調症の発症は好発時期にあたります。統合失調症は発症初期に適切に治療、支援を行うことが重要であると言われていました。

東京大学医学部附属病院 精神神経科（診療科長：笠井清登 教授）では、統合失調症、特にAYA 世代の患者に対する早期支援の臨床や研究で日本をリードしてきました。今回、これまで培ってきた統合失調症治療体制を集約し、AYA 世代の統合失調症患者治療に特化した「統合失調症 AYA 世代センター」を開設することになりました。同センターでは新しい入院プログラムである「ディスカバリープログラム」の設置を含め、当事者一人一人の希望や目標に即した治療法を探索することを目指した集学的治療と、多職種による包括的なケアを行います。これらのことで、症状の慢性化を防ぎ、当事者の症状と生活を改善することを目的としています。

4. 発表内容：

① 統合失調症 AYA 世代センター設立の背景

近年、思春期・若年成人世代（Adolescents & Young Adults：AYA 世代）（10代～20代、広くは30代まで含むこともある）の医療・ケアの充実が注目をされつつあります（世界保健機関 WHO, 国際誌 Lancet, 2007; 2012）。統合失調症は、AYA 世代に発症しやすい疾患です。AYA 世代は、社会に出るための準備をしたり、実際に社会に出始める重要なライフステージで、就学、就労、結婚、出産、育児など、本来喜ばしいライフイベントを経験したりする時期でもあります。そのため、AYA 世代の統合失調症をもつ方には、通常の成人期の患者さんに対する治療モデルに基づく対応のみならず、発症後早期からの集学的治療と、多職種による包括的な心理社会的ケアを行い、症状の慢性化を防ぐ必要があります。そこで、当科では、これまで培ってきたAYA 世代の方への治療体制を集約し「統合失調症 AYA 世代センター」を開設します。

② 統合失調症 AYA 世代センターの特色

統合失調症 AYA 世代センターでは、AYA 世代にある統合失調症当事者の急性期治療からリハビリテーションまでを一貫して多職種協働で行うことを目標とします。統合失調症とすでに診断され治療

を受けている方で、さらにより専門的な医療を希望される方や、統合失調症に類似の症状が出現し、苦痛や困難を抱えている方に当センターに外来初診していただき、対象者の病状により発症前駆状態と考えられる方には「こころのリスク外来」、発症後であれば統合失調症専門外来へとおつなぎします。外来での医学的評価を経て、専門入院プログラムを導入する場合と外来治療を続ける場合とに大別されます。専門入院プログラム（『ディスカバリープログラム』）では、各種検査・正確な診断・本人の希望の確認・生活能力の評価・生活リズムの改善・薬物療法の適正化・セルフマネジメントプランの作成・社会資源の導入などを包括的に行います。退院後には、当院デイホスピタル、作業療法の利用や地域医療・福祉資源の導入などにより、就労、就学など社会復帰を目指していきます。

5. 取材に関するお問合せ：

《広報担当者連絡先》

東京大学医学部附属病院

パブリック・リレーションセンター（担当：小岩井、渡部）

TEL：03-5800-9188（直通）

E-mail：pr@adm.h.u-tokyo.ac.jp

6. 添付資料：

統合失調症AYA世代センターの概念図

